



元気っ子通信

No.53

平成 25 年 9 月 5 日

夏休みの生活をふりかえって

今年の夏は異常な暑さでした。熱中症を気にかける毎日でした。

朝、来ると、今日やる勉強を決めてくる子、適当にドリルを持って来てだらだらと川へ行くまでの時間を過ごす子といろいろです。

10時には川へ出発し、約 1 時間を泳いだり、飛び込んだり、魚を捕まえたりとそれぞれが思い思いの遊びをします。飛び込みが一番の人気でした。

川の流れも毎年変化があります。去年飛び込めたところは浅くて飛び込めなく、深くて怖いくらいだったところが程ほどの深さになっていたり自然の変化にも子ども達は驚いていました。おまけに道中「まむし注意」の看板もありました。

自然と関わることでたくさんの刺激を受け学びがあると思います。プールでは味わえないものがあります。事故なく終えたことがなによりでした。

食後に静かに過す時間がありますが、川で疲れて寝てしまう子がいてもそばで平気で迷惑も考えずに騒ぐ子がいます。状況を見ることのできる子どもになってほしいと思います。

今の子どもはイベント慣れをしていて人の集まるところにぎやかな騒々しいところで遊ばせてもらえるところに行きたがるようですが、何も無いたいくつな時間を過ごせることも成長の過程には必要です。

そして、一番驚くことが「言葉づかい」です。男も女も区別がつかないあらっほい言葉です。「おまえが～せえ」「～せんか」「～やれ」など聞いていてあきれます。

また、テーブルでランプや工作の時も立てひざです。言葉でも所作でも毎日のしつけの中から身につけるものです。

一日一日を「忙しい」という言葉でくらずに子どもと向き合う少ない時間を一つ一つていねいに積み重ねてすごして欲しいと思います。そうすることによって子どもに「生き方」「考え方」が備わっていきます。

子どもの育ちの一番のかぎは【家庭】であることを考えて欲しいと願います。

